

国際力動的心理療法学会

第25回記念大会

大会テーマ

変化の時 Time to change – 現代人はいつ大人になるのか？

日時：2019年11月2日（土）— 4日（月・休）

会場：東京医科大学 新宿キャンパス

第2号通信 Welcome to Exciting IADP !!

国際力動的心理療法学会（IADP）第25回記念大会の大会第2号通信を皆様にお送りします。第2号通信では、今大会の大会プログラムを皆様にお知らせいたします。IADPの創立より4半世紀を迎える節目の大会として、鑑幹八郎先生、牛島定信先生、セス・アロンソン先生、ラルフ・モラ先生の4名のゲストを招聘し、豊かな内容のプログラムを組むことができました。国内外のトップの臨床家から学ぶことのできる貴重な機会にぜひご参加ください。ゲストの先生方もこの大会を非常に楽しみにしてくださっています。

“力動的心理療法の学会”であるIADPの年次大会は、学術大会であると同時に心理療法の訓練の場でもあります。そのため大会プログラムは、参加者も講師も全員の顔が見える距離の近さで、1日目の最初から3日目の最後まで通して大会プログラムに参加することで力動的心理療法の訓練が一步でも二歩でも前に進むように組み立てられています。1日目の講演で自分の臨床上の問いを置き、また理論・技法の最先端を学んでください。特別ワークショップでは、マスターセラピストの生の臨床に触れてください。夜の懇親会も是非参加してください。愛と怒りのエネルギーが飛び交うIADPならではの懇親会です。大会2日目は、1日目に学んだことや新鮮に体験したことを使って参加してください。研究発表では臨床研究・事例報告から臨床の新たな発見について議論し、午後の訓練ワークショップでは6時間みっちり臨床における態度・技法・技術・自己理解を磨くことができます。そして、大会3日目では、1日目と2日目と学び磨いた全てを使って事例に向かい合います。3日目午後の全体ケースセミナーは、初心者もベテランも参加者もファカルティも全員で一つの事例に向かい合います。3日間の学びをフルにを使って発表者が事例を前進させることに関わっていくことで、学びは臨床の用具として身につきます。

IADPの年次大会を自分の臨床に活かすためにも、ぜひ3日間スケジュールを空けていただいて、フルに参加していただければと思います。秋の3連休、日常から離れて自分のために臨床訓練に取り組む時間は、贅沢で豊かな時間になるとお約束します。11月2日、東京でお会いしましょう！

第25回記念大会 学術プログラム委員長
花井 俊紀 (PAS心理教育研究所)

大会スケジュール

大会 1 日目：2019 年 11 月 2 日 (土)

10:30 - 10:45	開会式
10:45 - 11:45	大会会長講演「現代女性の親密性の回避」 中村 有希 (大会会長・PAS 心理教育研究所・東京医科大学非常勤講師)
12:00 - 13:00	大会基調講演「関わり相互性と変化すること」 鐘 幹八郎 (広島大学・京都文教大学 名誉教授)
14:00 - 17:00	Edward L. Pinney 記念特別ワークショップ マスターセラピスト セス・アロンソン (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所) 牛島 定信 (ほづみひもろぎクリニック) 小谷 英文 (PAS 心理教育研究所) コメンテーター ラルフ・モラ (個人開業/メリーランド大学)
17:30 - 19:30	懇親会

大会 2 日目：2019 年 11 月 3 日 (日・祝)

9:30 - 11:30	臨床研究
12:30 - 18:30	訓練ワークショップ
予定講師	① 力動的事例研究ワークショップ 小谷 英文 ② 変化の瞬間をとらえる技法：安全空間生成のための PAS 基礎技法 中村 有希・永山 智之 ③ うつ状態を有する慢性疾患患者へのセルフケアプログラムと PAS セルフケアセラピー-実践・研究能力の向上を目指してー 宇佐美 しおり ④ Training Workshop on the first Three Hours of Psychotherapy Ralph Mora ⑤ 臨床家アイデンティティを磨くための集団精神療法 (仮) Seth Aronson ⑥ 学生相談における心理療法 石川 与志也 ⑦ 応答構成入門；心理面接における臨床的態様の精練のために 能 幸夫・髭 香代子

大会 3 日目：2019 年 11 月 4 日 (月・休)

9:30 - 11:30	事例スーパーヴィジョン
予定講師	① セス・アロンソン先生 (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所)：思春期・青年期・集団精神療法など ラルフ・モラ先生 (個人開業 / メリーランド大学)：力動的心理療法、子ども・家族、PTSD など ② 鐘 幹八郎先生 (広島大学・京都文教大学 名誉教授)：男性の成熟性・自我同一性・青年期など ③ 牛島 定信先生 (ほづみクリニック)：力動的精神医学、精神療法、パーソナリティ障害、うつ病など ④ 宇佐美 しおり先生 (熊本大学大学院生命科学研究部)：セルフケアセラピー、リエゾン・精神科精神看護など
12:30 - 13:30	総会
13:30 - 16:00	全体ケースセミナー
16:00 - 16:10	閉会式

大会基調講演

「関わりの相互性と変化すること」

日ごろ、心理療法の場で私たちは何をしているのだろうか。人と人との関わりが深まれば深まるだけ、相手の世界を知ることになり、それが変化、治療につながって、相手を成長に導く。この関わりをエリクソンは「関わりの相互性」と呼んでいる。この相互性の原理に基づいて、私は日ごろの臨床に従事している。

私たちの臨床の場は、その人と深くかかわることは、その人を深く知ることであり、信頼感と安全感を生み、相手の中に自信を生む。そこでは相手が自分と異なる存在であることを前提にしている。相手が異なるから、私と違った他者だから、その人を知るためには慎重に接近し、緊張感をもって、近づくことになる。

相手が私と違った他者であることは、相手が未知の人であることを意味する。私の投影を許さない重要な他者としての存在である。それが出会いの前提である。自分にとって相手は、未知の世界の人である。大人同士も、大人と子供も、そして男と女も未知の他者である。深い意味において他者であることが、私が相手を知ろうという働きを促進する。

他者である人間関係のあらゆるところに、この相互性は存在している。教師と子ども、親と子、友人と友人、男と女、そして国と国。変化の時代に変わらないものは、人と人が深く、生産的に、お互いが成長する関係として関わり合うこと。そして心理療法は、その基本構造を備えた人間関係なのだと確信し、私は毎日の臨床に携わっているのだが……。

<講師>



鏝 幹八郎 Ph.D. (広島大学 名誉教授/京都文教大学 名誉教授)

教育学博士(京都大学)。臨床心理士。広島大学名誉教授。京都文教大学名誉教授。ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所にて精神分析の訓練を受ける。青年期臨床、アイデンティティ研究、エリクソン研究をリードしてきた、日本を代表する精神分析家であり、日本の臨床心理学・臨床心理士の発展に最も貢献されたお一人である。

エドワード・ピニー記念特別ワークショップ

トップの臨床家の面接に直に触れよう

国際力動的心理療学会の年次大会では、本学会共同創立者の故エドワード・ピニー博士を記念し、毎大会、博士の名を冠した講演を行っております。今大会では、拡大版としてエドワード・ピニーを記念した特別ワークショップを開催します。

特別ワークショップは、大会テーマ「変化の時―現代人はいつ大人になるのか?」を起点に、2つの目的にむけて行われます。第1の目的は、心理療法の面接場面において、セラピストはどのように変化の時（瞬間）に立ち会うことができるのか、そして変化を生み出すためにどのような介入ができるのかを浮き彫りにすることにあります。第2の目的は、青年期から成人期への発達の現代的な困難さと必要な課題を浮き彫りにすることにあります。

当日は、3人のマスターセラピスト・アナリストの先生に、聴衆の前で有志のクライアントに対する心理療法・精神療法の面接を実施していただき、そのプロセスを振り返っていただきます。その後のディスカッションを通じて、1) 変化の時に立ち会い、介入するために必要な態度・技法、および2) 青年期から成人期への発達の困難さのノーダルポイントとそれを超えるための課題、を明らかにします。

当日面接をしていただく3人のマスターセラピスト・アナリストにつきましては、国内外からトップの臨床家をお願いし承諾を得ました。国内外のトップの先生方にお集まりいただき、実際の力動的心理療法・精神療法の面接をライブで見、そこから力動理解・技術・態度を学べるまたとないチャンスです。IADPの年次大会においても、このような機会はなかなかありません。ベテランの臨床家の方々にはディスカッションに参加していただき、学ぶだけでなく新たな智を生み出す試みに参加していただければと思います。また、初心の臨床家や訓練生の方々にはトップの臨床家の臨床に触れて、生きた臨床の面白さを感じ、ドキドキする体験をしていただければと思います。

<マスターセラピスト>



セス・アロンソン Psy.D. (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所トレーニング・ディレクター)：同研究所児童・青年期心理療法訓練プログラムにおいて訓練・スーパービジョンに取り組む。アメリカ心理学会 39 分科会セクション 2 (児童青年期) の無任所委員。ロングアイランド大学非常勤教授。イェシーバー・ホベベイ・トーラー (Yeshivat Chovevei Torah) においてラビ学生へのプロセスグループのリーダーを務める。アメリカ集団精神療学会フェロー。



牛島 定信 M.D. (ホヅミひもろぎクリニック 院長)：九州大学医学部卒業。ロンドン大学精神医学研究所留学。福岡大学医学部教授、東京慈恵会医科大学教授、東京女子大学教授、日本精神分析学会会長、日本森田療法学会理事長、日本サイコセラピー学会理事長、日本児童青年精神医学会理事長を歴任。人格障害、青年期の精神病理の解明および力動的精神療法の実践、研究をリードしてきた、日本を代表する精神分析医であり、精神分析的な精神医学に最も貢献してこられたお一人である。



小谷 英文 Ph.D. (PAS 心理教育研究所 理事長)：国際力動的心理療学会共同創立者、現理事長。アデルファイ大学ダーナー高等心理学研究所、ニューヨーク大学医学部卒業後集団精神療法コースで訓練を積む。困難患者とされる人々への心理療法・集団精神療法が専門。1970 年代アメリカの現代精神分析とシステムズ理論を持って帰国し、精神分析的システムズ理論 (PAS 理論) を打ち立て、現在に至るまで臨床・研究・理論構築を一体に常に取り組み続けている。

<コメンテーター>



ラルフ・モラ Ph.D. (個人開業/メリーランド大学)：アデルファイ大学において臨床心理学の博士号を取得。アメリカ陸軍戦略大学およびテキサス A&M 大学において卒業研究を完成させた。長年、兵士の PTSD 治療、戦地に向かう軍人・兵士の子どもたちへの心理的対応、子どもの PTSD 治療に精力的に取り組んでいる。2014 年にアメリカ国防総省での仕事を引退し、現在はメリーランド大学の非常勤教授を務め、また山口県岩国市にて個人開業を行う。

演題募集

一研究発表・研究サポート／事例スーパーヴィジョン一

IADP 第 25 回年次大会では、以下のプログラムに関して演題を募集します。

1) 研究発表	2019 年 11 月 3 日 (日・祝)	9:30-11:30	p6 参照
2) 研究サポート	2019 年 11 月 3 日 (日・祝)	9:30-11:30	p8 参照
3) 事例スーパーヴィジョン	2019 年 11 月 4 日 (月・休)	9:30-11:30	p9 参照

演題発表 申込み手続き

発表を希望される方は、「演題登録用紙」に必要事項を記入して、大会事務局までメールもしくはファックスにてお送りください。演題登録用紙は、大会ウェブサイト (<http://www.25annual.iadp.info>) からワードファイルでダウンロードすることができます。

後日、大会事務局より「研究発表要項」および「発表要旨テンプレート」をお送りします。「研究発表要項」は、大会ウェブサイトからご覧いただけます。なお、各発表は「4) 発表要旨受理の審査」によって受理された順に定員になり次第締切となります。お早めに申込ください。

発表までのスケジュール

- 1) 演題登録：登録用紙の提出 受付期間：～2019 年 5 月 6 日 (月・休)
- 2) 「研究発表要項」および「発表要旨テンプレート」の受取
- 3) 発表要旨の作成・提出 研究発表 締切：2019 年 5 月 31 日 (金)
. 事例スーパーヴィジョン 締切：2019 年 6 月 30 日 (日)
- 4) 発表要旨受理の審査
- 5) 審査結果の通知 提出後約 2 週間～1 ヶ月
- 6) 最終発表要旨の提出 2019 年 8 月 15 日 (木)
- 6) 当日発表

注記

- ・全ての発表は、該当関係団体の倫理規定、法律に則って行われたという条件の下で受理いたします。
- ・研究助成金等による臨床研究発表は、研究助成金名や、研究に際し支援・協力を受けた団体・個人についても、必要に応じて「付記」として記入ください。
- ・企業・法人組織等からの補助や援助（金額は問いません）を受けている場合、または、応募演題に関係する企業の被雇用者が共同研究者に含まれる場合は、その事実を明記してください（利益相反の公開義務）。なお、公的な研究助成金等（科研費等）は利益相反の申告事項には含まれませんが、助成がある場合には、発表時に公開することとします。

演題登録用紙送り先

国際力動的な心理療学会 第 25 回年次大会事務局

E-mail: office25@25annual.iadp.info

FAX: 03-6407-8201

研究発表・演題募集

一日常の臨床を研究し、更なる研究に繋がしましょう！

IADP の研究発表

「心理療法是事例研究に始まり、事例研究に終わる。」心理療法に関する能力を高めていくには、事例研究が欠かせません。クライアントの心理療法プロセスはそのクライアントの事例研究となります。IADP では、心理療法の臨床実践と研究を分けず、臨床を研究することを積極的に取り組んでいます。

良い事例報告はそのまま事例研究に通じていきます。今取り組んでる臨床事例を研究したいと思っているけど、どう研究していいかわからないという方、まずはその事例の事例報告から始めてみませんか？

事例研究で明らかになったことをより実証的に調査的に研究するリサーチも広く募集しています。

皆さんの日々の臨床にある面白い変化、面白い力動、効果的な技法・技術の発見などを IADP で発表し、積極的に議論しよう！

国際力動的心理療法学会第 25 回年次大会 「臨床研究発表」要項

以下の形式で発表要旨を作成してください。

1. 臨床研究発表分野について

1) 「事例報告」

事例報告 (Case Report) とは、心理・看護・教育・福祉などの臨床領域における心理療法、あるいは、危機介入や治療過程における力動的理解・分析にもとづいた介入 (看護領域における看護面接、治療面接を含む) (以下、「力動的介入」とする) による事例の臨床検討報告を指す。報告の主な目的は、クライアントおよび患者の内的体験を、その事実資料に基づき可能な限り再構成することである。以下の構成でまとめられ、臨床蓄積事例として価値の認められるもの、あるいはその領域の今後の研究展開に対する促進的意義の認められるもの。事例報告の構造は以下のとおりである。

①問題 (はじめに、序、問題の所在と背景)

事例性の同定とその特異性あるいは、類似性の確認および検討課題を特定化し、その背景、今日共有されている理論的理解や先行研究の知見もレビューできると良い。検討課題は、以下の要点を、心理療法および力動的介入過程の重要な変数とした事例全体の理解の追及と共に特定化すること。

- i) 病理、心理力動、人格機能・構造、人格発達
- ii) 家族、友人、集団、環境社会関係、およびセラピストとの関係
- iii) 心理療法/力動的介入理論、治療過程、治療技法、セルフケア看護技法、教育対話手法

②目的

特定化した検討課題を軸に、以下の諸点を包含し、構成的に簡潔にまとめる。

- i) 何をどこまで検討しようとするのか

- ii) それをどのように検討しようとするのか

- iii) そのための理論や仮説はどのようなものか

③事例資料

目的手順にそって、提示資料を体系的に構成して示す。

- i) 事例性：提示事例の選定理由、資料性を示す条件の確認
- ii) 資料内容：目的によって必要なもののみの構成提示例) 主訴、臨床像、治療理論/治療仮説/治療計画、治療構成 (構造、契約等) /治療技法、治療展開過程 (臨床事実)、治療的成果 (臨床的变化の事実)

④分析、考察

目的を軸に、資料の厳密な分析と考察を展開し、決して資料にフィードバックできない根拠のない考察に及ばないこと。

⑤結論と今後の課題/展望

結論は、事例資料の検討により明らかになったことと、残された問題の両側面を出来るだけ簡潔にまとめる。問題として、掲げたテーマについての研究展開の展望を書く。

2) 「事例研究」

事例研究 (Case Study) とは、心理・看護・教育・福祉などの臨床領域における心理療法、看護手法、教育手法、あるいは危機介入や治療過程における力動的介入による事例を用いて、臨床的、学術的な研究蓄積に貢献するものを指す。事例研究の基本構造は、以下のとおりである。

①問題 (はじめに、序、問題の所在と背景)

研究課題の現段階までの先行研究のレビューに基づくテーマの設定と、どこまで明らかにするかの課題の同定を行う。研究テーマは、大きく3つの領域に分かれる。

- i) 病理、心理力動、人格構造・機能、人格発達
- ii) 家族、集団、社会心理の構造とメカニズム
- iii) 心理療法、教育手法、看護手法あるいは力動的介入についての理論・過程・技法

②目的および研究意義

特定化した検討課題を軸に、以下の諸点を包含し、構成的に簡潔にまとめる。

- i) 何をどこまで明らかにしようとするのか
- ii) それをどのように明らかにしようとするのか
- iii) そのための基盤理論や、新たな仮説構成はどのようなものなのか
- iv) 研究意義と展望はどういうものか

③方法、手順

研究目的を達成するための方法と手順を明示する。

④事例資料

目的手順にそって、提示資料を体系的に構成して示す。事例資料内容は、事例報告とは異なり、目的によって必要なもののみ構成提示することが求められる。

⑤分析、考察

理論および仮説構成をふまえ、研究目的を軸に資料の厳密な分析と考察を展開すること。

⑥結論と今後の課題／展望

結論は、明らかになったことと残された問題の両側面をできるだけ簡潔にまとめ、それに基づいた研究の次のステップとさらなる展開の展望を整理する。

3) 「リサーチ」

ここでの「リサーチ」とは、心理療法、力動的介入、精神分析的な主題に関する実証、調査研究を指す。追試、探索的研究、効果研究、質問紙研究を含め、研究蓄積に貢献するもの。

「リサーチ」の基本構造は、大きくは、上記2分野と重なるために、簡単に示す。①問題 ②目的 ③方法・手順 ④理論/概念枠組みおよび作業仮説 ⑤結果 ⑥考察 ⑦結論と今後の課題

2. 臨床研究発表の留意点

1) 事例資料の守秘性

事例資料の入手法および守秘性に関する処置を明確にしてください。また、事例の実施された機関における研究発表規則（倫理審査委員会の認定等）と法律に則って行われたという条件の下で受理いたします。

2) 研究助成金等

研究助成金等による臨床研究発表は、研究助成金（研究助成番号や）や、研究に際し支援・協力を受けた団体・個人についても、必要に応じて「付記」として記入ください。

企業・法人組織等からの補助や援助（金額は問いません）を受けている場合、または、応募演題に関係する企業の被雇用者が共同研究者に含まれる場合は、その事実を明記してください（利益相反の公開義務）。なお、公的な研究助成金等（科研費等）は利益相反の申告事項には含まれませんが、助成がある場合には、発表時に公開することとします。

3) 共同発表者

共同発表者がいる場合は、発表要旨をご提出される前に、内容の確認を行ってください。

3. 発表要旨の作成

1) 要旨は発表言語（日本語もしくは英語）で作成してください。日本語で作成した場合、発表タイトル、発表者、所属については英語でも記載してください。

2) 日本語の場合は2000字以内、英語の場合は500語以内で作成してください。

3) 要旨には、引用文献、画像、表、図、グラフや付録を載せないでください。

4) 前述の募集テーマを、キーワード選択の際の参考にしてください。

5) 要旨は、前述の3分野の研究構造にそって簡潔にまとめてください。「結論は、当日に示す」等の曖昧な表現は、避けてください。

4. テンプレートに沿ってご準備いただいた要旨を下記の大会事務局のアドレスにメールで添付してお送りください。お送りいただく際には、必ず添付書類にパスワードをかけて送信をお願い致します。

大会事務局アドレス：office25@25annual.iadp.info

5. 提出期限は、2019年5月31日（金）です。

6. 要旨の受理と発表

1) 大会査読委員会が事例要旨を精査し、1ヶ月程度で発表者に結果を通知します。

2) 受理された事例要旨は、当日配布される抄録集に掲載されます。なお、受理された場合は、2019年8月15日（木）まで修正が可能です。修正をされたい方は、期日までに大会事務局のアドレスに修正版をメールに添付してお送り下さい。

研究サポート

—あなたの研究を先に進めるサポートをします—

第25回年次大会では、臨床研究発表の時間に並行して研究初心者のための「研究サポート」を開催します。

「研究サポート」では、研究を始めたい臨床事例や面白いと思った事例の場면을元に、そこからどのような研究を始められるか、事例理解の整理をしながら、変数関係とテーマの特定化の手助けが得られます。この研究サポートを起点に、次年度以降のIADP年次大会での事例報告・事例研究へとつなげていきましょう。

臨床経験年数は問いません。研究を始めたいと思うけれども、どのように始めていいかわからない研究初心者の方、「研究サポート」をご活用ください。

定員：2名（定員になり次第、締め切りとさせていただきます。）

時間：60分

申込方法：参加申込書に必要事項を記入の上、大会事務局まで送付してください。

<申込受理後の流れ>

以下の様式に沿って2点資料を作成し、事前に提出してください。（抄録には掲載しません。）

- i. 事例概要（定性データ・主訴・問題・臨床像・家族構成・来談経緯・事例経過・処方へのオリエンテーション・取り組みたい研究テーマを含む）を日本語で1000字以内で作成してください。
- ii. 発表事例について、発表者が面白いと思う場面・事例に特徴的な場面・事例の力動的特徴を表している場面について、面接や対話の逐語（最大10やりとり程度）を作成してください。

注：発表者は、事例の発表について、該当関係団体の倫理規定、法律に則って準備を進めてください。不明な点がありましたら、大会実行委員会学術プログラム委員会にお問い合わせください。

事例スーパーヴィジョン

—事例に参与し、生きた臨床から学びましょう！—

国内・海外のマスターセラピスト、第一線で活躍するセラピストおよび CNS による事例スーパーヴィジョンを受けたい方を募集します。以下のスーパーヴァイザーのキーワードを参考に、希望スーパーヴァイザーをお選びください。発表は日本語もしくは英語のいずれかとなります。

海外のセラピストから事例スーパーヴィジョンを受けたい場合、英語での発表を歓迎します。日本語で発表する場合でも発表要旨は英語で作成していただきますので、ご留意ください。英語での発表要旨作成に関してご心配な点がございましたら、大会事務局までご相談ください。

スーパーヴァイザー

- ① セス・アロンソン先生（ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所）：思春期・青年期・集団精神療法など
ラルフ・モラ先生（個人開業 / メリーランド大学）：力動的心理療法、子ども・家族、PTSD など
- ② 牛島 定信先生（ほづみクリニック）：力動的精神医学、精神療法、パーソナリティ障害、うつ病など
- ③ 鑪 幹八郎先生（広島大学・京都文教大学 名誉教授）：力動的心理療法、思春期・青年期、男性の成熟性・親密性
- ④ 宇佐美 しおり先生（四天王寺大学看護学部・看護実践開発研究センター）：セルフケアセラピー、セルフケアプログラムなど

※ ①は各先生それぞれ 1 事例（1 時間）募集。②④は 2 事例（各 1 時間）募集。③は 1 事例（2 時間）を募集。

国際力動的心理療学会第 25 回大会 「事例スーパーヴィジョン」発表要項

以下の様式に沿って事例スーパーヴィジョン資料を作成してください。

1. 発表要旨の作成

- i. 要旨は発表言語（日本語もしくは英語）で作成してください。日本語で作成した場合、発表タイトル、発表者、所属については英語でも記載してください。
- ii. 日本語の場合は 2000 字以内、英語の場合は 500 語以内で作成してください。
- iii. 要旨には、引用文献、画像、表、図、グラフや付録を載せないで下さい。
- iv. 事例要旨は、以下の様式でご提出ください。
 - ①事例要旨の題名（20 語以内）、②著者名と所属、③発表の目的、④事例の診断あるいは心理アセスメント、⑤治療計画、⑥事例概要（定性データ・処方へのオリエンテーション・臨床像・家族構成・来談経緯・事例経過を含む）、⑦検討ポイントの呈示（「当日発表する」というような不明瞭な表現は避けてください）、⑧キーワード 3 つまで。
- v. 下記の項目をキーワード選択の際の参考にしてください。

発達位相（幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、老年期）、病態水準（神経症水準、人格障害水準、精神病水準）、性別（男性、女性）、診断、査定、技法、セッティング（外来、入院/病院、教育機関他）、力動的
心理療法/個人心理療法/集団精神療法/コンバイ

ンドセラピー、トラウマ、PTSD、うつ、転移、抵抗、ワーキングスルー、精神看護、セルフケア、リエゾン精神看護

- 2. お送りしたテンプレートに上記様式に沿ってご記入頂き、下記の大会事務局のアドレスまでメールで添付してお送りください。添付資料には必ずパスワードを掛けていただきますよう、お願い致します。

大会事務局アドレス：office25@25annual.iadp.info

- 3. 提出期限は、2019 年 6 月 30 日（日）です。

注記：

- ・ 要旨をご提出される前に、共同発表者と内容の確認を行ってください。
- ・ 全ての事例検討発表は、該当関係団体の倫理規定、法律に則って行われたという条件の下で受理します。

要旨の受理と発表：

- 1. 事例選定審査委員会が事例要旨を精査し、2 週間程度で発表者に結果を通知します。
- 2. 受理された事例要旨は、当日配布される抄録集に掲載されます。なお、受理された場合は、2019 年 8 月 15 日（木）まで修正が可能です。修正をされたい方は、期日までに事務局のアドレスに修正版をメールに添付してお送り下さい。

訓練ワークショップ

—臨床技法・技術、態度の“訓練”ができます—

訓練とは？

訓練という言葉に馴染みがあるでしょうか？力動的心理療法を実践する上で必要な技法・技術や態度は、ただ理論を勉強したり、技法書・手順書を読むだけでは身につけることはできず、実際にその技法・技術や態度を繰り返し行い、身になじませ、鍛えていく訓練が必要です。自分のできなかった技法・技術や態度を繰り返しの訓練の中で身につけて臨床で実践できたときの心地よさはとても大きなものになります。

日本のみならず国際的にもこの訓練を得られる機会は少ない中で、IADPの年次大会では毎年必ず“訓練”ワークショップを開催しています。会員もそうでない方も、初心者もベテランも分け隔てなく一同に集まって、技法・技術や態度を身につけていきます。仲間と共に自らの臨床を鍛えることの楽しさと厳しさをぜひ体験しましょう！

第25回年次大会では、それぞれのトレーナーの特色を活かした7つのワークショップを開催します。詳細は、5月にお届けする大会パンフレットでお知らせします。楽しみにお待ち下さい。

全体ケースセミナー

—大会3日間で身につけたことを使おう—

IADPの全体ケースセミナー

全体ケースセミナーは、年次大会最後のクライマックスです。全員参加で一つの事例の理解を深め、発表者の臨床を前に進めることに挑戦します。発表者も参加者もベテランも初心者もファカルティも、それぞれが3日間の大会で学び訓練した知識・態度・技法や技術をフルに使って事例に向き合います。

ひとりひとりが一つのケースに対して最大限自分の臨床能力を使い、それぞれの仮説が会場を飛び交い、互いに刺激しあうことで、事例の理解が深まります。

ぜひ、この刺激的なケースセミナーにあなたも参加しましょう！

大会参加申込みについて

2019年5月開始予定

プログラムの内容、講演者・訓練トレーナーなどの詳細は、4月下旬発行の大会パンフレットでお知らせいたします。大会ウェブサイトに随時最新の情報を掲載いたします。

国際力動的心理療学会第25回年次大会 大会事務局

PAS 心理教育研究所

電話：03-6407-8201

大会ウェブサイト：<http://www.25annual.iadp.info/>